

何と優さしい巻物——姫さらば許されよ。(と接吻す)かく致すも天下晴れての仕業、與るも取るも皆巻物の命令通りぢや、之につけても懸賞の晴れの仕合に臨める勇士の敵手に勝てりと思ひながらも、さて拍手喝采の騒音をきけば、心は惑ひ眼は眩みて半信半疑はて今のは吾を讃めたる聲なるか、それとも敵手を讃めたるかと、思ひ煩らうと同じく、拙者も亦、目に見るものゝ真か偽か、自らも疑ひ惑ふやうな始末。姫の御手から、確かにそれに相違ないとの、何ぞ證據の品でも貰はねば、氣が晴れぬぞいな。

\*ル アレ、パッサニオ様愛に立つ妾に、何の御懸念がムリませう。見らるゝ通りの者でムリまするわいなア。わが身一人の爲めならば、別にこの上の慾とてもムリませねど、たゞ郎君の爲めには、慾に際涯がありま

せぬ。身に五六十倍の價値がついて、容色は千倍、財産は萬倍にも増したうてなりませぬ。これと申すもたゞ郎君に愛でられたさの一念、愛でられたさの一念に、品性も容色も、財産も、朋友も、彼も此も、際涯なく惜しうてなりませぬ。されど、たてや、妾の取得としては、搔きあつめても、聚めても、塵にも足らぬ不束者。つゝめて言へば、羨もわるく、仕込も足らず、よくくの世慣れぬ我儘者で、ムんすわいなア。唯年齢の若い、がまだしもの幸福、覺束無くとも、取る手があらば、學びの道を進みませう。胸のかゞみの錆びもせて、磨けばやがて光る日の、到るを待つは更に幸福されど、妾の身に眞の取得がありとせば、そは松が枝にからむ藤、蔓郎君にその身を任せたなり、汗とかへらぬ、論言の命を仰ぐ心もて、他まで忠實に仕へまつらむ一事にムリます。今はいよく妾

の身も身に附ける一切の物もすべて郎君のもの郎君の身に附ける物となりて侍る。思へばげに夢のやう、今の今まで、妾はこの邸宅の持主、この數ある奴婢の主、この一身の司配者にムりました。然るに今の今、これなる家も、奴婢達も、さては、これなる妾の身も、皆悉く郎君のもの。右は一切此指輪に添へて郎君に捧げます。この指輪こそ一生の契のしるし。若しもこの一品を賣るか遺失するか、又他人に遣はされもせば、それは郎君の心の變りし兆候、容易にその急所を離すことではムりませぬぞい。

ハッテ あゝ、姫、何と返事をしてよきやら、拙者には分りませぬ。潮と湧く熱血のたゞ、總身に漲るばかり。拙者の四肢百官は、皆混沌の渦中に捲き込まれて、前後左右も判別がつかぬ。例へば、徳望高き明君が、民衆の前

に立ち、一場の訓諭に辭令の妙を盡せし後には、勇み喜ぶ群集の間に、感歎の聲、少時は鳴りも止まず、甲唱ふれば乙和して、目にもしるきは、たゞ、満足の色、萬口一時に發する言葉の、一々は聴きとれぬに似たる。宛然その通りの吾が心の混雜にムる。(作者の頭にてるならん)イヤ併し此指輪につきては御念には及びませぬ。この指輪が、この指より離れむ時は、即ち生命の失せむ時、その時には、ハッサニオを世に亡きものと思されて、苦しうない。

テリ 憚り乍ら旦那様、御姫様、私どもはこれまで一伍一什をたゞ拜觀して居りましたが、一同の希望通り、かく御芽出度いことになりました。上は、今こそ、御祝詞を申上げてよい時と存じます。——御兩方眞に大慶に存じます。

クラ パッサニオ様と、それから御夫人様、この度は誠にお芽出度い仕合せ  
で、何れ御同様と申上げたいやうな次第で、そのお芽出度い所に私ど  
もも肖りたいやうなわけて、いよ／＼御兩方が御婚禮の儀式を舉げ  
らるゝ曉には是非その私供も、婚禮をさせて戴きたいもので。

パッサ それは大に賛成致すが、その前に卿に於て女房を一人見立てる必  
要がある。

クラ イヤ御蔭様で、既に女房を一人見立て、戴きました。憚り乍らパッサ  
ニオ様、拙者の眼も、貴所の眼に劣らず鋭い。貴所は姫様に御眼をとめ  
られた拙者は、腰元に眼を留めた。貴所も惚れられた。拙者も惚れた。斯  
かる事に躊躇するのは、貴所も嫌、拙者も嫌ぢや。シテ貴所の運がそれ  
なる手筈に懸れるが如く、拙者の運も亦、矢張りその手筈に懸つて居

た。その來歴を申上ぐれば、實はその拙者奴は、汗水垂らして、これなる  
美人を附けつ纏しつ上顎が干上がるほど口説いて／＼口説き抜い  
て、漸く大願成就とまで過ぎ著けましたので、たゞそれは條件附きの  
話、貴所の武運芽出度くして、姫様を我物とされし上ならではとの契  
約にムりまする。

ボル テリサ、それは又事實かいな。

テリ ハイ……若し姫様のお許可さへ戴かれまするなら。

パッサ シテ、グヂチア、卿も充分本氣の沙汰か。

クラ 誓つて全く本氣の沙汰で。

パッサ それは何よりの吉報ぢや。吾等の祝言の儀式も、卿達の祝言の爲め  
に一層引き立つて見えるといふもの。

クラ ナアチリサ、何方の組が、先つ男の子を擧げるか、千兩賭の勝負をしようか。

チリ エツ、賭をしますか？

クラ イヤ到底吾々夫婦が勝てる見込はないから廢すとせう。それは兎に角、誰ぢア其所へ参つたは、ロレンツとその情婦の君か。これは又何うした譯、ソラニオまで遣つて、参つた。

ロレンツ、サエシカ、及びヴェニスよりの使者ソラニオ登場

パッサ ロレンツ、ソラニオの兩兄、善うこそ拙宅へお出てくださいな——  
イヤ只た今資格を得ただかりの小生には、こりや聊か口巾ツたき口上ぢやつた。啗ボルシア、拙者同國の親友を欺待つほどに、許して呉れよ。

ボル ハテ入らぬ御遠慮、欺待たんで何としませう。

ンロレ 御鄭重なるお言葉、難有い仕合せにムります。實はパッサニオ氏、拙者は最初よりお訪問せん所思ではなかりしが、途すがら、これなるソラニオに邂逅し、遠ての勸誘もたし難く、これまで同道致せる次第。  
ニソラ 全くそれに相違なく、拙者が同行を勧めました。これには譯がムります。アントニオ氏が同氏をば貴下に推薦致したので。

とパッサニオに一通の書状を渡す

パッサ 書状の封を切る前に、後生ぢや、一ツ聽かせて呉れよ。アントニオには別條はムらぬか。

ニソラ 病氣とは言はれませぬ、身軀から申せば、尤も遠者とも言はれませぬ、あの氣分では——何はしかれ、その書状にて近況が御了解になり

まする。

クラ ナリサ、それなるも客様をよく慰めて、欺待つて呉れるがよい。時にソラニオ氏一ツ御手を(と握手)何ぞヴェニスから新奇しい消息でも齎つてまゐらぬか。親玉のアントニオ氏には近來如何して居られるな。吾々の今回の上首尾を聞かれたならさぞ歡ばれる、事であるう。吾々ほかのチェーソンの亞流、大事の寶物をば首尾克く手に入れた(チェーソンの故

事は第一幕第一場の未段に出てたり)

ニソウ イヤ左様の寶物よりは、アントニオ氏の失はれし、財寶なりと手に入れて呉れ、ば善かつたに。

ホル ハテ氣懸りな、あの日頃美しい郎君のお顔から色艶が失せるといふは、何ぞ凶悪事が、あれなる書狀の中に書いてあるに相違あるまい。

別戀の朋友なりと死去つたか知らぬ。さもなければ、何事ありとて、彼様な穩當な御方の精神を、これほどまでに顛倒させる筈はないや、あれ、あのお顔の色が次第に悪るうなる——これいな、パッサニオ様、煩いと仰せらるゝかは知らねど、妾は半ば此方さまの妻、憂さも愁さも二ツに割つて味はんで何としませう。その御書狀の中に何が認めであるやら、聴くべき丈は何卒聴かせて戴きまするぞい。

パッサ お、卿にまで多大い苦勞をかけて相濟まぬ實はこの書狀の中には世にも面白からぬ文字が載せてある。想ひ起せば、過ぐる日のこと、胸に思ひのあり丈を初めて卿に開陳せし折、拙者は一切有りの儘に身には一錢の財産も無く、持てるはたゞ血統の寶裸一貫の紳士ぞと陳べました。その時拙者に露詐言を言ふ意思とてなかりしが、裸一貫

といへる右の文句は今より見れば甚だしい掛値さを卿は某を虚言家の一人と思ふてあらう。裸一貫といへるは全く拙者の粗忽實は裸一貫以下と言ふべきでムつた。その理由を申上ぐれば、拙者は親友の一人に依み、日頃渠と仇敵の間柄なる猶太人より、吾が入用の金子を調達致させましたので。——これがその親友よりの書状で、ムる。書状を友の肉躰とせば、中なる一字一句は皆急所の生疵の痕、尊き血汐が迸り出る思がするわいなア——が、それにしてもソラニオ、之は事實に相違ないか。アントニオの商品は悉く難船したのでムるか。たゞの一個も救はれたものはムらぬが。トリポリスからも、メキシコからも、又英吉利からも、その他リスボン、バーベリー、印度等からも一艘も歸つて來ませぬか。たゞの一艘も、畏ろしい暗礁の危難を免れたものは

ムらぬか。

ニッ  
たゞの一艘もムりませぬわいな。のみならず、よしやアントニオ氏の手許に、返済すべき現金が整つてあるにしても、あの高利貸奴が、それを受取るべき摸様は見えませぬ。人間の皮を被つた動物の中にて、あの猶太人ほど、他人を破滅させやうと、一心不亂に苦心して居る奴は、まだ拙者の眼に見た例はムりませぬ。彼奴朝夕殿様の許に押しかけ行きて、若し裁判を許さぬとあらば、これ即ち内外人共通の特權を蹂躪するものぢやと難題を并べます。これまで、二十人許の紳商達が、入り換り、立ち換りて説得を試み、又殿様を初め、その他高貴の方々からも様々に説諭を加へましたが、シャイロック奴は頑として抵當裁判、證文を振り翳し、捍でも動く氣色が見えませぬ。

アエシ あの妾がまだ父の許に居りました頃にも、父は同國人のチヤバルや  
らチヤスやらに打ち向ひ、貸した金子を二十倍にして返濟されるよ  
り、まだ／＼アントニオの肉を取ると申して居りました。それゆゑバ  
ツサニオ様若し官府の御威光で、それを御制止になられませぬなら、  
お可哀相にアントニオ様には、飛んだ酷いお目に逢はされますわい  
な。

ホル シテ斯く困難の地に陥たお方は、郎君と御別戀の間柄なので、ムリ  
まするか。

バツサ それは最う拙者に取りて無二の親友——飽まで親切で、高尚で、義  
理を盡すことに倦怠を知らず、往古の羅馬の武士氣質が、そっくりそ  
のまま、具備つて居ること、あのアントニオのやうなものは、以太利全

國に二人とはあるまい。

ホル その猶太人からは幾何の金子をお借りなされましたので？

バツサ 拙者の爲めに三千兩。

ホル たいそれしきの金額にムリまするか。それならば、右の金額を二倍  
にして、六千兩を拂ふた上に、証文を御取揚げなされませ。更に其六千  
兩を二倍、三倍にしても苦しうはムリませぬ。それ程大事の親友が、バ  
ツサニオの爲めに頭髪の一筋損はれたと言はれてはなりません。そ  
れにつけては、これより直に寺院に赴き、公然に妾をば郎君の妻とな  
されませ。シテ婚禮の儀式さへ濟まば、即刻ツニスなる、その親友をば  
訪問せらるゝが善い。身不束ながら、心に疚しき所ある良人に、新枕は  
かはさせませぬ。金子などは、さばかりの端銀、二十倍にして返す程の

用意をなされませ。懸て奇麗さつぱりと拂はれし上は、其親友を伴はるゝやうお願ひ申します。その間キリサと妾とは、身は處女の寡婦暮し、寂びしい待遠しい不在を守つて居るぞいな。いざ、とくお出ましなされませ。これから直ちに祝言の式へ臨むのでムンすわいなア。遠來のお客様は、存分に款待つてお上げなされませ。そして燭然な愉快いお顔を見せてたも。苦勞に苦勞をした上に、運添ふた郎君ぢやものを、大事にせんで何としませう。——一寸そのお書状をさかせてたも。

ベッサ 「朗讀すること」 ベッサニオ兄、余が所有の船舶は悉く難破し、余が金を借りたる債主連は何れも冷酷を極め、余が元氣は全く銷沈し、又余がシャイロックに對する借用證書は期限を誤れり。之を返済する時は余が生命は到底救はるべくもあらねば、最期の際に、願くは足

下と一度面會せしめよ。足下の懐かしき顔さへ見ることを得ば、余等の間には、恩もなく又借もなく、思ひおくこと更に無し。但し來るも來らぬも、そは足下の隨意たるべし。若し愛人の許可なくば、この書狀の爲めに無理に來訪さるゝには及ばぬぞかし。

ホル こりや斯うしては居られぬ。一時も早く萬事を處理けて御出立なされませ！

ベッサ 行けとのゆるしか出し上は、このまゝ首途を致さうぞ。行く途々は臥床に入らず、枕にも又就かずして、飛ぶが如くに行つてまゐらう。

と一企退場



第三場 ヴェニス市 街頭

シャイロック、サラリノ、アントニオ及び獄丁登場

シャイ  
ロック  
獄丁どの、此男を逃がして呉れまいな慈悲の絲瓜のと左様の事に  
傾ける耳は持たぬ。これが即ち無利息で金子を他人に貸して居た大  
馬鹿者でゐる。獄丁どの逃がしては呉れまいな。

アント  
ニオ  
これ、シャイロック、今一應拙者の申す所を聴いてくれまいか。

シャイ  
イヤ拙者は證書通りに履行されたいのぢや。證書を無効に爲いな  
ど、何遍言ふても誰がさくものか既に神前に於て是非とも證書通  
りに履行すると誓詞まで立てたシャイロックぢや。なアアントニオ、汝  
は思も怨もない拙者を捕へて、犬呼はりをして居つたが、犬なら犬で

善い。犬であるから此犬の牙に氣をつけるが善いわ。殿様にも是非こ  
の裁判を許可して貰はねばならぬ。それにしても獄丁、汝は何といふ  
馬鹿者ぢや。汝までが彼奴の請求通り、連れ立つて外出するなどは、  
何といふ緩慢い仕業。言語同断と言はねばならぬ。

トアン  
これ依む、今一應拙者の申す所を聴いて呉れ。

シャイ  
イヤ拙者は證書通りに履行されたいのぢや。汝などに貸す耳は持  
たぬ。證書通りに履行して呉れ、ばそれ外に用はない。モ、何も言  
ふな。仲裁の文句などに往生して、御無理御尤と、溜息ついて頭を縦に  
振るやうな左様、ナ生温るい、寝惚面の痴者扱をされるのは眞平ぢや。  
後尻を附いて来るのは廢めるが善い。會話は無用ぢや。拙者は證書通  
りに履行されたいのぢや。

リサラ 人間の仲間入りをして居るものゝ中に斯んな情知らずの山狗は無い。

トアン イヤ最う構はずに放つて置かれい。益にもたぬ嘆願などをして彼様な奴の後を追ひ廻はすのは最う致さぬ。彼奴は飽までも、拙者の生命を奪はんとして居るのぢや。其理由も善う分つて居る。拙者は今迄彼奴の高利に苦められし人々からの愁訴をきいて、幾度救助してやつたか知れぬ。それ故彼奴拙者をば怨恨に思ふて居る。

リサラ よもや殿様に於かれても、この人肉の抵當をば認可さるゝこともあるまい。

トアン イヤ殿様とても天下の公道は枉げられぬ。元來此ッニスに於ては、外人も吾々内地の人民と同一の特権を與へられて居る。然るに此特

権が許可されぬとありては、甚だしく國家の威信を損ずる譯。市の貿易は皆外人を相手に成立して居ること故、こりや中々容易ならぬ重大事件ぢや。最う致方がない、このまゝ歸るとせう。それにしても、近來重なる損失と、種々の心痛との爲めに、見る影も無く憔悴果てたる拙者の身、明日の裁判に、果して一斤の肉が債主の鬼どのに渡せるであらうか。獄丁どの出掛ませい。——たゞ今生の願望には、パッサニオに裁判の間に逢はせ、拙者が借用の金子を返済する現況を目撃させた  
いものぢや。

と一全退場

第四場 ベルモント ポルシア邸の一室

ホルシア、テリザ、ロレンツ、ゲエシカ及びバルサザール登場

面のあたりかゝる事を申上げるも失禮乍ら、奥様が世の常ならぬ御両方の交情を篤と汲み分けて、何所までも義理を忘れぬ御心根の高潔には、拙者つくづく威服致しました。殊に旦那様の御不在の憂さにも、露も服の御様子もなく、いつも麗しき御機嫌を拜するは、何といふ難有い事にムりませうが、同じ義理立をするも人にこそよれ、奥様の心盡しのアントニオ氏と申すは、正真正銘の天晴紳士、又旦那様とは無二の親友。されば若し奥様が、同人の氣性をとっくり御理解の上からは、斯人の爲めには一臂の勞も惜からじと、必然思召さるに相違

ない。世間一と通りの義理親切を盡すとは、又格別のお張合がムりませう。

ホル さればいな、心に善とせる事を行ひて、妾はまた悔た例は知りませぬ。今後に於ても左様なうて何としませう。元來日頃足繁く往來して、兄弟の如く交はり、固く愛着の纏もて、結ばれたる親友の間には、其外貌にも態度にも、又其精神にも、必らず類似の點があるもの。今其アントニオといふ御方が、わが良人バツサニオと水魚の仲である上は、必らず互に類似れる筈。若しも類似つて居る上は、此大切の御方を、焦熱地獄の苦境より、救はん爲めに妾より遣はしたる金子などは、固より物の數には入りませぬ。何はしかれ、この話柄は何うやら我が田に水を引くやうにて、面白くない程に、最うこれだけに、中止るとして、他のお

話を致さうぞいな。——さてロレンゾぬし、實は貴所に折入つての依頼がムリとするが、何卒わが良人の歸宅らん日まで、此家の家政やら、監督やら、是非擔當けて戴きますぞい。其間、妾は何を致して居るぞとの御不審もムリませうが、實はこれも神様に立てし秘密の誓詞のあら故。これよりテリサとたゞ二人、良人の歸つて來まさん日まで、ひたすら祈禱三昧に心魂を澄まさむ覺悟。此地を距ること二里の地に立てる尼寺、妾達は、それを假の宿所とは致すぞいな。右の次第故迷惑とも覺されやうが、何卒此重荷をば擔當けてたもれ。これも貴所に對する信任と、一ツは又遁れがたき事情との爲めてムんすぞいな。

ロレン それは誠に易い御用、折角の御仰に從はんで何としませう。

＊ル 奴婢だちも事の様子は知るほどに、吾等夫婦に冊くと同じく、卿夫

婦に冊くこととてムリませう。さらば御依頼申しましたぞい。

ロレン 御機嫌克う御安泰に行つてお出でなされませ。

＊ル 奥様蔭ながら御無事の程を祈つて居りますわいな。

＊ル 御親切の程忝ない。妾とても同じやうに、卿の無事を祈るぞい。チェシ

カどのさらば。

とチェシカ、ロレン退場

さて、バルサザール——其方は今まで正直律義に勤めて呉れたが、今後とて變らぬであらうない。此書状をば懷中致し、脚の續かん限り、根限り、バヂェアの町に行つておじや。して此書状は身の從兄弟ベラリオ博士に相違なく手渡すが善い。さすれば先方よりは書状と衣裳とが手渡されるであらうが、よく氣をつけて件の品々を受取つた上

は、ひた走りに走りてヴェニス通ひの船に乗込むがよい。ハテ返答などは隙際し。さ早う出立いたせ。身は其方の先廻りして、ヴェニスの町に待つて居るぞい。

サベル 奥様、さらば力限り、草駄天走りに行つてまゐります。

と退場

ホル 早うするがよい、テリサ。其方が知らぬ仕事が、まだ塞へて居るぞい。——これより直ちに準備に着手、其方の良人も、わが良人も、氣のつかぬ時に、その顔を見てやるのぢやわいな。

テリ 先方でも妾達を見ますので?

ホル それは見せるわいな。されど此方の服装は悉く取りかへて、無いものを有るやう、知らぬことを知つたやうに欺くのぢや、一と口に言へ

ば、若い男子の服装に姿を變へて出掛けるのぢやわいな。テリサ、其方と賭事せうか。何れが男子として手際よく、劔さばきに力がこもるか。必然其方などには負けはせぬ。先づ身の男子になつた時には、大人と小供との變移期の黄色い聲に、嚇り立て、日頃のチヨク／＼した刻歩をば男子らしい潤歩にかへ、誰憚らぬ生意氣盛りの、青年そのまゝ、口任せに喧嘩の話をしてさかせる時には、又艶ッぽい所を見せ、實は小生日頃より、兎角婦人より好かれる性質が、片端より拒絶けて呉れたので、いづれも終に相思病の、果は墓場の露、嗚呼婦人から好かれるばかりは、小生にも致方がムらぬなど、并べ立て、さて、併し今更考ふれば、小生も餘り無情さ過ぎた。氣には入らずとも、何にも殺さすでものことぢやつたなど、姿れて見せる。先づ斯様な法螺の二三

十も言ふてきかすれば、こりや學校を卒へて、少くも一年は經つた青年ぢや、などと大概の人は思ひ違へるであらうぞ。生意氣な若者の乳臭い癖ならば、千や二千は知つて居る程に、實地にそれを使用つて見やうわいな。

子リ すりや奥様妾達は男子方と同じ衾を重ねるのでムリまするか。

ホル あれ子リサ、言葉を少し慎むが善い。男子方と同じ衾を重ねるなどと、口の悪るい方に聞かれたなら何とするぞい。何はしかれ、馬車の上にて一伍一什の計書を言つて聞かせるとせう。モ一馬車は外門に待つて居る筈さ。早う、今日の中に二十哩の道中をせねばならぬ。

と兩人退場

第五場 同上 庭園内

ランセロット及びガエシカ登場

セラン イヤ全くそれに相違ムらぬ。何故と申して貴女、親の因果といふものは皆其子に運るものと、古來相場が決つて居ますからなア。それ故、拙者は誓つて、ソノ貴女の爲めに頭痛鉢巻を致しまするで。元來平生から拙者は貴女に對して、萬事露骨に申上げて居るが、今回も同様に、衣に齒被せず、有りの儘に御高見を申上げるやうな次第。それ故決して貴女は落膽なすつてはなりません。貴女が未來永劫浮ぶ瀬なき事は拙者の衷心から保證する所。たゞ爰に何うやら、物になりさうな妙案が一ツある。尤もその妙案といふのも、頗る氣紛れな性質のもの

て……

アエシ してその妙案といふのを聴かせては呉れまいか。

さればてゝるナ、その妙案といふは、貴女の父親が貴女を製造せしめ、  
有り卑猥に墮るから

従つて貴女が猶太人などの娘でないこと……

アエシ ホンにそりや氣紛れな妙案ぢやわいな。さすれば猶太人と契を結

んだ、母の罪障も、この身に運るであらうな。

セウン いかにも左様でして見ると、貴女の身軀は父親からも、母親からも、

両方から崇られて居ますな。前門父の狼を防げば、後門母の虎の牙に

かゝる。こりや八方閉塞、何れに向いても浮む瀬がない。

アエシ ハテ宜わいな。妾には大事の良人が附いて居る。良人の手に救ふて

貰へる。最う、身の改宗も濟んで居るわいな。

セウン それこそ彌々不届な御亭主どのぢや。耶蘇信者の数は目下多きに

過ぎてこの上に用はない。この上その數が増加したなら、人間は同時

に住むことが出来なくなる。又耶蘇信者の増加は必らず豚肉の價を

高める。若し世間悉く豚肉喫者となれば、その時は豚の品切となり、い

かに大金を擲つても、焼肉一片炭火の上に拜まれなくなるだらう。

ロレンツ登場

アエシ 其方の今申したことは、残らず良人に告げるぞい。幸ひ其所に見え

られた。

ンロレ ころくランセロツト、拙者の女房を、さう物蔭などに連れ込むと、今

に汝に對して吝氣を起したくならうぞ。

アエシ あれロレンツぬし、その配慮には及びませぬ。ランセロツトと妾とは

不和して居りますわいなア。少しは遠慮といふもあるものを、妾を捕へて汝は猶太人の娘ゆゑ、未來永劫浮ぶ瀬がないなど、申しました。尙ほその上、和主の事も悪口雑言、猶太人の婦女を耶蘇教に改宗させて、豚肉の價を高めるやうな者は、決して御國の良民ではないなど、言ふたわいな。

それしきの事を御國に對して辨解するは譯もなき事、汝が黒ン坊の女の馬乗り事件の方が遙かに辨解に苦むぢやらうなア。ランセロツト、あの黒ン坊の女は汝の種を宿して居る。

イヤ黒ン坊にして赤ン坊を生むは、こりや稀有のお手柄。但し同人若し眞紅な嘘を吐くに於ては、流石の拙者も青菜に鹽。

これは呆れる。道化者といふものは、彼れも此れも、皆馭洒落ばかり

言つて居る。近い内に、黙つて何にも言はぬのが、却て洒落の上乗、饒舌は、單り鸚鵡の間にのみ行はるゝやうになるであらう——さ、大將早く内へ入つて呉れ。そして、食事の準備をするやう吩咐けて呉れ。

準備は最う出来て居ります。誰も胃袋は空かせて居る筈。

汝も中々悪洒落の達人ぢやナ。では、食事を整へるやう吩咐けて呉れ。

所が、それも最う出来て居ります。たゞ卓布を掛けい、と言へば澤山。

然らば卓布を掛けて呉れいかッ。

おつと、其語も矢張り無用。拙者のやうなものでも、身體に布帛をかけて居る。裸體で食事は致しませぬ。

まだ、言草を言つて居る！あゝ、五月蠅く。恐圖く言はずと有る



丈の洒落を皆一時に打ち開けて了はぬか。拙者如き淡泊な人間の言葉は、淡泊に解釋して貰はう。さア仲間の所へ飛んで行き、食卓には卓布を掛け、皿には肉を盛り分けるやう申し付けろ。さすれば俺達が食へに行く。

セラ ちツと又違つた。食卓といふものは、それは盛るべき筈のもの、肉といふものは、それは卓布をかくべき筈のもの。それから貴所の食へに來る來ぬは、それは御隨意、御氣分次第。

とランセ退場

ンロ 驚いた出鱈目、何といふ頓珍漢な文句ぢや。あの道化者奴、地口、駄洒落を山ほど頭の内に詰め込んで置き、それを手當り次第に並べ居る。尤も何の道化者も、大抵皆似たより、寄つたり、最つと上等の地位に使

はる、道化役でも、矢張り意義には頓着せず、たゞ肥臆しておける引ッ掛を並べるに過ぎぬのが多い。時にデシカ、氣分は善いか。又パッサニオ氏の令園に就きては、卿は何と思はるゝぞ。

デシ 何と讚へん言葉もムリませぬわいな。これにつけても、パッサニオ様には品行を餘程慎まねばなりませぬ。天女のやうな奥方をお持ちになるは、つまり現世に在りながら、天國の快樂を身に享ける道理。従つて現世に居る時、品行を正しくせねば、とても未來に、天國には參られぬ筈。ホンにまアお立派なのは、ボルシア様の御器量。若しも天國にて二柱の神達が、何を勝負を遊ばされ、下界より率てまゐれる二人の美人を賭物とせらる場合もあらば、一方にボルシア様が出るが最後之に匹敵るべき婦人は、この醜い世界には、とても見當る筈はない。外に

貴重（きゆうじゆう）の品でも添（そ）はねば、平均（へいきん）の取れる婦人（きゆうじん）はありませぬ。

ンロ 所（ところ）が良人（りやうじん）としての拙者（せつしや）の價値（けいち）は、女房（にようぼう）としてのボルシア様（ほるしやさま）の價値（けいち）と對等（たいとう）何（なに）と卿（きやう）は果報者（くわくぱう）者（もの）てはあるのう。

アエシ それは、さうでもあらうが、妾（めかけ）の意見（いけん）も聴（き）くがよい。

ンロ 聴（き）きもせうが、それよりは先（ま）づ食事（じきじ）をするとせう。

アエシ でも今（いま）思（おも）ひ立つた時に、讚（たた）めてやりたいわいな。

ンロ イヤ後生（ごせい）ぢやく、食卓（じきたく）の肴（さかな）に取（と）つて置いて呉（く）れ、食事（じきじ）の時（とき）なら何（なに）

を言（い）はれても、構（かま）はず一所（いよ）所に嘸（ひま）下（くだ）して下（くだ）す。

アエシ それなら思（おも）ひ存分（ぞんぶん）和主（わしゅ）の品評（しんひやう）を（して）やるぞい。

と兩人退場

### 第四幕

#### 第一場 ヴェニス市 法廷

ヴェニス公、諸貴族、アントニオ、パッサニオ、クラチアノ、  
サラリノ、其他登場

公 いか（に）アントニオ（は）出廷（しゅてい）致（いた）して居（ゐ）るか。

トアン はッ出頭（しゅとう）致（いた）して居（ゐ）ります。

公 余（われ）は其方（そのほう）が誠（まこと）に不憚（ふたん）に耐（た）へぬ、其方（そのほう）と今日（こんにち）對審（たいしん）すべき人物（じんぶつ）は、心木石（こくじやく）に異（こと）らず、慈悲（じい）を解（と）せず、人情（にんじやう）としては露（つゆ）ばかりもなき人（ひと）非人（ひじん）ぢや。

トアン 承（うけたま）れば殿様（とのさま）に於（お）かれては、同人（どうじん）の苛酷（ごこく）なる申立（まうたて）を緩（ゆる）めん爲（ため）に、一（ひと）と方（か）ならず、御盡瘁（ごじんさい）をなされし由（よし）、拙者（せつしや）身に餘（あま）り、冥加（めい加）至極（しごく）に存（ぞん）じます。

る。なれども同人に於ては、餘まで執拗に我意を押し通さん所存シテ其毒手を遣れん。手段は、法律の許さぬ所と存じますれば、拙者に於ても、最早わるびれは、致しませぬ。意地と我慢を我身の楯とし、非理非道の蠻行をも、自若として耐へ通さん覺悟にふりまする。

公 誰ぞあるか、猶太人シャイロックを法廷に呼び入れい。

リサウ 戸口に於て命令を待つて居りまする。イヤ最うそれに見えました。

シャイロック登場

公 一同場所を空けて、同人を余が面前に連れてまゐれ。——さてシャイロック、其方が今回の訴訟に就きては、世間一統、また余自身とても、種々取沙汰をして居る次第であるが、一ツ其方の肚裏を當て、見せうか。思ふに、其方は只陽に極悪の假面を被りて、切羽詰つた間際まで、初志を

言ひ張る所思ぢやな。さて爾々士俵際に達すると、忽ち慈悲博愛の本心を打ち開け、これまでの冷酷なる外觀に駭ける人々をして、一層意外の感あらしめんとする計略ではあるまいか。して今迄其方が、料料として、これなるアントニオの軀の肉一斤を請求せるとは、打つて變り、單に料料を免除するばかりでなく、やさしき慈悲の念に裨されて、元金の一部分をも免除する氣であらう。アントニオの一身には、近來不幸のみ打ち重り、さすが知名の豪商も、之には甚だ困難の模様。此有様を見む者は、鐵の心、石の腸、慈愛親切の仕業には、露經驗なき野蠻國の鬼どもにても、かならず氣の毒に感ずるであらう。其方とても、よもや氣の毒と思はぬことはあるまい。吾々一同、其方の穩便の返答を待ち居るぞ。

イヤ拙者の了簡は、兼ねて殿様に申上げた通りの事て、別に變つた所もムりませぬ。拙者は證書面の正當な料を頂戴致す所思て、既に神様にも誓詞を立てましたぢや。若し殿様が之を御許可にならぬとあらば、へ、御制定の憲法も、市の自由もあつたものか。ヴェニスヴェニスの市は闇になりますぞ。事に由ると、殿様には何故拙者が三千兩の金子を受取らずして、一斤の腐肉を取らんとするか。その理由を言へと仰せらるゝかも知れぬが、拙者は其返答は致しませぬ。先ア拙者の道樂とて申して置きませうか——これで御得心になられましたか。例へば、拙者の家に鼠が出て困るといふので、その鼠驅除に、拙者が一萬兩の大金を惜まぬとせば、何と致されます。道樂とあれば、致方がムるまい——エツまだ御得心になられませぬか。凡て世はさまぐの人心

或る人は、口アングリの豚を見れば、(丸燒の豚に)胸持を悪くし、或者は猫を見れば狂人となり、中には又管風琴が、鼻音にて呻るをきけば、尿が耐へられなくなる。詰まり好悪の念慮といふものは、感情の源泉感情は、全く之に左右せられるのでムります。さて殿様への御返事でムりまするが、御覽の通り、人間の道樂には格別の理由とてなく、何故に大口開ける豚を見て我慢がされぬか、何故に無邪氣な猫や管風琴が胸持を悪くするか、一々理由は分りませぬ。たゞ痲癩に觸る所から、止むを得ず、悪むいと知りつゝも、排斥するやうな譯。従つて何故と申されても、拙者に於て、別に申上げるべき理由はムりませぬ。又申上げるは好みもしませぬ。先アアントニオに對して、或る一種の深き怨恨と、強き憎悪とを抱き、それで斯様な算盤の取れぬ、損な訴訟

をも致すのでゐるな。これにて御得心になられましたか。

バツサ エ、此人非人！それが何て汝の残忍なる所爲の答辨となるものぞい。

シャイ フ、ン、拙者は貴殿を喜ばせん爲めに答辨する義理は有たぬ。

バツサ 氣に入らぬと言ふて、それを一々殺す法は世間にはないぞ。

シャイ 殺さうと思はぬものを誰が憎むものか。

バツサ 悪感情は最初は必ずしも憎悪の念とは言はれぬ。

シャイ イヤ蛇に刺されるは一度で澤山、二度は刺させぬ。

アン これくバツサニオ、相手は猶太人ではないか。海の岸邊に立ちあがりて寄せ来る巨浪に退れと言ひ、森に彷徨ふ狼を捕へて、何故仔羊を食へるかと詰り、さては又深山の松に打向ひ、天風に吹かるゝ時にも、

高き梢を撼して颯々の音を立てる勿れと命ずるの類げにシャイロツクの心を柔げんを求むる程、世にも無理なる注文は無い——此猶太人の心——これより硬きものが、そも世にあらうか。嗚バツサニオ、お願ぢや、最う何の手段も、何の提議も、施して呉れるな。それよりは、成るべく迅速に事務を處理して、拙者には最後の判決を申渡し、又シャイロツクには、その日頃の願望を遂げさせてやるが善い。

バツサ 汝から借りし三千兩は、これ斯の通り六千兩にして返却すが。

シャイ その六千兩の每一兩が、六兩づゝの價値になつても、拙者に於ては受取らぬ。拙者は是非抵當の品を取る覺悟ぢや。

公 これく他人に對して慈悲を施さずして、天の慈悲に浴する事が出来ると思ふか。

シャイ 身に疲しい事が無き以上は何の天罰などが畏ろしかろうぞ。貴所方が奴隷に對する御自分の處置を御覽なされい。貴所方は澤山の奴隷を買入れて居らるゝが、宛然驢馬や、犬猫を遇するやうに、賤しい、苦しい仕事をば、之に佞附けて、虐待されるではムらぬか。その理由といふは、たゞ金子を出して買ひ入れたといふに過ぎぬ。この時、拙者が、貴所方に打向ひ、奴隷などは解放して、御息女に嫁はされよ。重い荷物の下に、汗水垂らして稼がせるは罪ぢや、不都合ぢや。奴隷の臥床は、御自分達の臥床と同じく溫柔に、奴隷の口は、御自分達と同様に、美味に飽かせてやるが善いなど、申上げたなら何と致される。奴隷は乃公の所有物ぢや。餘計な事を言はれなと、必然返答されるに相違あるまい。拙者の返答も之と同様ぢや。拙者が今要求する所の肉の一斤はこり

や莫大の貨幣を以て手に入れたものぢや。これは拙者の所有物ぢや。所有物故それを取るに何の不思議、拙者に渡さぬとあるに於ては、法律も糞もあつたものか。ジュニスの法令は、三文の價值も無きものとなる。こりや是非裁判にかけて戴きます。さア返答は何とてムる。公 アイヤ余の權利として、今日の法廷には中止を命ずるかも相分らぬ。但し此事件の裁判を依囑せる、博士ベラリオが出頭致さば又格別ぢや。

リサラ 殿様に申上げます。只今一人の使者か、外面に待つて居ります。が、そは同博士よりの書状を携へて、わざ／＼パデミアの町より出頭致したものでちやと申します。

公 早う其書状を見せい。使者を呼び入れて苦しうない。

マッサ マア〜アントニオ、氣を落してくれな。何のこれしきの事、元氣を失はぬが何より肝要ぢや。拙者の血なり、肉なり、何なりと一切シャイロックに渡した上でなくては、卿の血汐のたゞ一滴なりとも失はせる事ではない。

トアン イヤ拙者の一身は病み髀へる去勢の羊、おとなしくたゞ死を待つばかりの身ではある。同じ菓實の中にも、腐りかけたのが、先頭に地に墜つる道理、拙者も早く左様ありたい。パッサニオ卿は心靜かに樂しき光陰を送り、死んだ吾身の碑銘なりと書いてくれよ。それが卿に取りて無上の役目。

子リサ書記の服装にて登場

公 其方はパチェアより参つたか——ベラリオ博士の許より。

子リ 仰せの如くにムります。ベラリオよりは、よしなに申せとの命にムります。

と一通の書状を呈す

パッサ これ〜シャイロック、汝は何故庖刀などを磨いで居る？

シャイ ハテ其所なる破産者どのから、抵當の肉一斤を割き取る所思て。

クラ エ、此慈悲知らずの犬畜生、汝の心は石ぢや、砥石ぢや、庖刀の刃を心の砥石に磨ぐ、汝、イヤ何れほどの利刃でも、何んな人斬庖刀でも、汝の心の刃ほど、鋭いものは世にあるまい。汝の胸には、斯程の人の願も浸み込まぬか。

シャイ フン、和主などの猿智慧で、絞つた文句が身にしみて耐るか。

クラ 何ぢや、此獸類奴ッ！斯んなものを生かして置く、政府の法律が氣

に食はぬ。往昔ビタゴラスとやらいふ奴が、獸類の魂は、時に人跡に轉宅をするものぢや、と言ふたげな成程。汝の様子を見れば、之に賛成したくもなる。察する所、汝の曲つた魂は、前世に於て必然狼などの軀に宿つたものに相違ない。その狼が、人間を害傷めし爲めに、絞り殺され、程なくその魂が絞首臺より逃げ出して、汝がまだ汚ららしい母親の胎内に轉つて居た時分に、ヒヨイと飛込んだものであらう。何う見ても、汝は狼の類ぢやよ。イヤに血腥くて、ガミ／＼して、がつ／＼して、  
シヤイ フ、ハ、ハ、和主がいかにかに口を酸くして、悪口をついたとて、別に捺した實印が證書面から消えるではなし、騒々しく怒鳴る爲めに、損ずるものは、たゞ呼吸器のみぢや、なア若輩、今少し智慧の袋でも修復して、顔でも洗つて、出直して參られぬか。さもなくば、辻褄が合はなくなつ

て滅茶／＼に寸断れて了はうぞい。拙者は裁判が済むまでは、何事あつても爰は退かぬ。

公 この書狀による時は、ベラリオ博士は、年少にして博學なる、一博士を當法廷に推薦するとあるが、その御方は何所に居らるゝな。

子リ 既に當法廷の附近まで出頭致し、入廷の許可を得べきや否や、殿様の御返答を待つて居ります。

公 それは言ふまでもない事ぢや、誰ぞ三四人馳せ向ひて、鄭重にその御方を、御案内申せ。その際に、一つベラリオよりの書狀を、一同に讀みさかせねばなるまい。

書記 「朗讀」今回閣下よりの芳書到着致し候節は、迂生生憎重病にて臥蓐中に候へしが、幸にも閣下よりの飛脚到着すると同時刻に、弊蘆を



訪問したる一年少法律博士有之、右は羅馬在住の者にして、名はバルサザールと呼び候。依而猶太人と貿易商アントニオとの間に、構成せられたる訟訴事件を委細説明したる上、吾々兩人にて諸種の参考書なども調査し、拙者の意見は一切同人に陳述致し置き候。元來同人の博識なるは古今未曾有と言はむも決して溢美には無之、從つて迂生の意見は、同人の掌中に入りて、更に大修正を加へられ申候。今回迂生の懇望に由り、代理人として御地に出頭致す事と相成り候へば、願くは老成の人士に對すると同様の厚遇を與へられたく、その若輩なるを以て輕視さるゝなどのことなきやう祈上候。かゝる年少者にて、かゝる老熟の頭腦を有するものは、未だ迂生の見聞せざる所に御座候。何卒御採用相成度候。その實力は、必らず

迂生の讚辭にまして、充分發露致すべく、確信する所に御座候。謹言、一同聽かれたか。これがペラリオ博士の書狀に述べたる文句ぢや、イヤ彼所に見えたるが、その年少博士であらう。

ホルシア法律博士の服裝にて登場

ホルシアに。いび御手を(と握手する)貴所は老博士ペラリオの許より參られましたか。

公 善うこそ御來駕何卒それなる椅子にお掛けの程を、シテ貴所は、目下當廷に於て審議中の事件に就きて御存知なるか。

ホル 左様、此事件に關しては、委細承知致して居ります。さて何れが貿易商、何れが猶太人にムりまするな。

公 アントニオ、シャイロック——兩人前に出ませい。

ホル 其方の名はシャイロックと申すか。

シャイ いかにも、そのシャイロックで。

ホル 其方が今回の訴訟事件は、ことの外奇妙なる性質のものではあるが、いかにもその手続が正式に執行され、ヴェスの法律は之に就きて、一點の批點をも發見することは出来ぬ。(アに向ヒ)其方の生命は、今全然此者の掌中に握られて居るな。

トアン 同人も左様申して居ります。

ホル 其方はこれなる證書を承認致すか。

トアン 承認致します。

ホル 然らばこりやシャイロックに於て、宜しく寛仁の處置に出てねばならぬ。

シャイ 何の必要ありて、寛仁の處置とやらに出てねばなりませぬか。それを先づ伺ひたいもので。

ホル イヤ慈悲なるものは初めより側から強ゆべきものではありませぬぞ。音立てず降る春雨の、しつとり濡るゝ心こそ、げに人間の仁慈の姿、其功德も亦二重三重、與ふる者も與へらるゝも、均しく天慶に浴すとやら。慈悲の力は又廣大無邊、若し一天萬乗の、君主の胸に宿らむか、其光萬乗の玉を欺き、頭にかゝる王冠よりも、なかくに玉座の上の君主を飾るに足るとか、げに見よ、王者の笏は、たゞ東の間の威力の示現、畏敬端嚴の假の徽號にして、偏に王者の畏るべく、憚るべきを思はしむ。之に比ぶれば、慈善の姿のさても、貴や、王侯の胸に座を構へ、又天帝の心に宿を作る。王道の神道と合するも、慈悲に正義を緩める時ぞ

や。さればやよ、シャイロック、其方の訴訟は、理非を糺すにありとは言ふもの、單り理義一方に押通さん曉には、罪深き人間の一人として濟はるもの、無きを忘れるな。吾々人間は皆神に向ひて慈悲を祈る。何人も口にする、かの祈禱の句は、詰まりは同胞に對して慈悲を盡せとの教をも含んで居る。かく長々しく述べたるも、理屈づくめの、其方の訴訟を緩和めんとする余の寸志、若しも其方が飽まで主張を枉げぬに於ては、破邪顯正を司るヴェニス法廷は、それを拒む力はない。止むなく被告に對して不仁冷酷の宣告をも與へねばならぬ。

シャイ 憚り乍ら拙者は曲つた事は嫌てムる。若しも此身に不正い事でもムらば、刑罰でも何でも當てるが善い。拙者は是非法律を施行して、證書面の科料の品を頂戴せねば承知致さぬ。

ホル アントニオに於ては、證書面の金額を拂ふ力はないか。

バツサ 右の金額は、この通り拙者が、同人に代りて即座に相渡します。イヤ右の金額の二倍にても苦しうムらぬ。若し又二倍にて足らぬとあらば、十倍でも拂ふ所思、これは拙者の手なり、頭なり、心臓なり、何なりと賭けて固く誓ひます。尙ほそれでも不足とならば、そは取りも直さず、シャイロックが、全然理非曲直を度外にして、悪意を以て人を罪に陥れんとする證據、かゝる場合に臨みては、願くば便宜を以て、一時御手に法律の執行を中止致されたう存じます。大功は細瑾を顧みずとやら、大なる善事の爲めには、些細の悪事を犠牲として、此慘忍非道の入鬼の、奸計を打破して戴きたいものでムります。

ホル イヤその儀は聞き届ける事相成らぬ。一旦制定されたる法令を、枉

げん権利を有するものは、ヴェニス市内に一人も居らぬ。若し今回之を破るとならば、忽ちそれが先例となり、之に倣へる法令違反が、陸續として市内に闖入致すであらう。その儀は何うあつても聞き届け兼ねる。

シャイ ヤツ畏れ入つたる明智の御言葉、こりや往古の明法官ダニエルの再来ぢや！お若いに似ぬ、この御技術拙者ほど、敬服に堪へぬ、

ボル 時に其方に一つの依頼がある。その借用證書なるものを、一寸見せては、くれまいか。

シャイ 此所……此所にムリます。此所に……。

ボル これシャイロック、元金に三倍の金額が提出されて居るではないか。最う其儀は御無用……誓詞がしてムリます。神様に誓詞が

してムリます。心霊に對して偽誓を立て、善いものでムリませうか。こればかりはヴェニス、全體の富にも換へられませぬ。

ボル ハテ此證書は最早期限が過ぎて居るな、法律の上より論ずれば、シャイロックは此證書を柄となし、アントニオの心臓に最も近き個所より、一斤の肉片を截り取る権利を有して居るが、それは不憫ぢや。宥してつかはせ。大目に見て元金の三倍を受取るが善い。余が此證書を裂き棄てやうか。

シャイ 證書面にある通り、奇麗に償却して貰ふた上は、裂き棄てらるゝも、棄てられぬも、そりや御随意ぢや。見受くる所、貴所様にはお立派は裁判官、よく法律に精通され、御解釋の條々一々確乎とした典據があるやうに存じます。拙者は此法律に據りて、貴所様に請求致します。

ぢや、貴所様は法律の擁護者として、最も恥かしからぬ御方ではムらぬか、早速裁判に御着手なされませ。憚り乍ら、いかなる人が三寸の舌を振ふたとて、一旦かくと決心した事を、取消すやうな拙者ではムらぬ。

トア 拙者に於ても、早う判決を下さるゝやう、衷心よりお願ひ申上げます。

ボル 左ある上は彌々致方なし。いざ胸を開いて、シャイロックの刃を受けん用意をされい。

シャイ ヤツ天晴明智の判事様！お若いに似ぬ無類の敏腕家！

ボル 法律の主意として、證書に載せたる正式の科料は、是非之を認可してやらぬ譯にはまゐらぬ。



第四幕第一場

シャイ 左の様が証書に指し示す通り

シヤイ 御尤千萬なお言葉——それにしても、あゝ活智明断の見事な御腕前！御様子のお若いに似ず、何とまア見上げた思慮分別！

ホル それ故胸を開けませい。

シヤイ それぢや、その胸ぢや。立派に胸と證書面に載せてある。左様でムリますな、判事様。心臓に最も近き箇所——これが證書面の文句でムリますな。

ホル いかにもさうぢや。時に肉を量る爲めの秤器は當廷に備へてあるか。

シヤイ 拙者が斯の通り用意して参りました。

ホル 時にシヤイロック、其方の周旋にて醫師を一人呼んで参らぬか。出血の爲めに死なすも不憫、疵口を縫ひ合せて遣はせ。

シヤイ 左様の事が證書面に指示してムりまするか。

ホル イヤ文字には表はしてはないが、構ふことはない。慈善の爲めに、これしきの事をしてやるが宜からうぞ。

シヤイ 拙者の眼には、左様の事は見當りませぬ。證書には載せてはありませぬ。

ホル アントニオ、其方は何ぞ言ひ残すことはないか。

トアン イヤ格別言ひ残すこともムりませぬ。かくあるべしとは兼ねての覺悟、モ一充分の準備は出来て居ります。バッサニオ、一ツ握手をして貰はう。これがいよゝゝ永久の訣別ぢや！拙者が卿ゆゑかゝる身の上になつたとて悔むまい、歎くまい。拙者は寧ろ身の幸運を喜んで居る。つらく世の中を見渡せば、兎角零落た者が、徒らに生命長く、凹め

る眼、皺寄る額をかゝへて、老齡の貧苦を泣くが常習。然るに拙者が、かゝる切ない憂目を逃れたは、何ぼう難有い事であらう。令聞にはよしなに依みまするぞ。その折はアントニオが臨終の模様を言ひ落すな。又卿に捧げし拙者の愛情の濃さ、之もわが亡後にて懇ろに告げられよ。戀て始終の物語が濟みたらば拙者がバッサニオの親友たる資格の有無是非令聞に判断させて見るがよい。卿はたゞ世に誠意ある親友の一人失せたを悔めばよい。拙者に於ては卿の爲めに借財を拂ふのを更に悔みは致さぬぞよ。シヤイロックが何れ程深く切らうとて、この赤心は早くより卿に捧げたもの、今更何の惜からう。

バッサ ア、辱ないぞい、アントニオ、余は生命にも換へ難き、立派な妻を持ち、ちは持ちたれ、この生命も、この妻も、又全世界も、大事な卿の生命には

換へられぬ。是等凡てを皆失ひ、凡てを此人鬼にさへげるとも、卿の生命を取り留めたい。

ホル これ／＼其方は左様の事を申せど、若し其方の妻が聴いて居たなら、餘り難有くは思ふまいぞ。

クラ 小生とても御同様、新たに持つた宿の妻可愛にはさまつて居れど、何んの女房一疋死んでも惜しくは思ひませぬ。肉躰を離れし妻の亡魂が、此畜生の心を入れ換へる効能でも持つて居るなら、小生に取りて此世の本望。

子リ 其様ナ事は女房の蔭て言ふが善い。さなくば飛んだ風波が一家の裡に起らうぞい。

シヤイ 「旁白」 耶蘇教徒の亭主振りは、斯うも薄情なものかなア。拙者として

娘を一人持つ身ぢやが——イヤこれにつけても、娘奴が、耶蘇信者などを亭主にせず、寧ろ穢多の悴でも亭主にしてくれればよかつた。——イヤ下らぬ事に隙を費して居る。早く宣告を下して戴きますぞ。

ホル 貿易商アントニオの肉一斤は、確かに其方のものぢや。右は法廷が宣告するのぢや、國法が認可致すのぢや。

シヤイ 何と曇りなき判事様の御判決！

ホル シテ其方は、その肉片を被告の胸部より截つて取らねばならぬ。右は國法が認可致すのぢや。法廷が宣告致すのぢや。

シヤイ 何と博識な判事様の御判決！さア法廷の申渡してあるぞ！用意せい。(とシヤイ二人の間に刺つて入る。ホル)

ホル アイヤ少時待てい。今少し申し渡すべき事がある。此證書に據れば、



血は一滴たりとも其方に遺すことになつて居ぬ。證書の文字は明白に「肉一斤」とある。其方は此抵當を受取るがよい。肉一斤を受取るが善い。されど、之を截り取る際に若し貴き血汐の、たゞ一滴たりとも流すが最後、ヴェニスに法律に照らして、其方の家財田園の全部を没收して市の財産と致すぞ。

クラ ャツ何といふ、曇りなき判事様の御判決！よく聴け猶太人、何といふ博識な判事様の御技倆！

シャイ それが、法律に御座りまするので……。

ホル おゝ、其方自身にて條令を讀むが善い。其方は他まで理非の判決を主張致した。因て其方の思ひ存分、イヤ其方の存分以上に判決してつかはす。

クラ ヤア何といふ博識な判事さまの御技倆！よく聴け猶太人、何といふ博識な判事様の御技倆！

シャイ エー、然らば拙者は、彼の男の提議に應じます。元金の三倍を拙者の手に收めて、アントニオは放してやります。

パッサ その金子ならば爰に在る。

ホル 控へませい。シャイロックには、他までも法律の鑑にかけて裁判して遣はす。決して早まつてはならぬ。抵當の一品の外には、何物をもシャイロックに渡すこと相成らぬ。

クラ ヤイ猶太人！何といふ曇りなき判事様の御判決！何といふ博識な判事様！

ホル 斯様の儀故、さア早く肉片を截り取る準備をせい。が、血は滴すな。又

截り取りたる肉は、正味一斤を越えても相成らぬ。不足でも許さぬ。若し一斤の量に過不及あらば、縦令其差異の分量が、一匁の十分の一なりとも、又其十分の一の十分の一なりとも、イヤ若し秤器の上に、毛髪一筋の誤差が見えやうとも、其方の生命は亡きものと知れ。又其方の財産は没收と覺悟せい。

クラ ヤツ 往古の明法官ダニエルの再來！猶太人、確かにダニエル！さア聞いても暴れても、汝は俺の掌中のものぢや。

シヤイ ては元金を渡して戴きたいもので、拙者はモ一歸ります。

バツサ 元金ならば、残らず耳を揃へてある。さアこれぢや。

ホル アイヤ、彼者は、一旦官府の法廷に於て、それを拒絶致した。與ることならぬ。飽まで法律に糺して、抵當の品を受取れい。

クラ こりや何うしてもダニエル！往古の明法官ダニエルの再來！猶太人、汝はよく俺に此甘い文句を教へて呉れた。

シヤイ たゞの元金ばかり頂戴する事もなりません？

ホル 其方は抵當の品より外に何物も受取るとは相成らぬ。先刻申した通り、生命賭けにて受取るがよい。

シヤイ エ、それなら何も用らぬ。棄てると焼かうと、御勝手にされい。モ一拙者は斯様な所に留まつて論判などは致さぬ。

ホル イヤ、待て猶太人！其方はまだ、法網を脱れることは相成らぬ。ジュニスの法律の規定する所によれば、若し其方如き他國人がありて、直接若くは間接に、市民の生命に危害を加へんとせる事實が、明白なる場合には、第一、其者の爲めに害意を挿まれし市民は、其者の財産の、

一半を沒收すべき事。第二、財産の残る一半は國庫の機密費中に繰入れらるゝ事。第三、其犯罪者の生死は、一にヴェニス公の權内に屬し、他の何人も之に對して異議を申立つる權利なき事。——かく規定されて居るのぢや。然るに其方は正に此状態の下に立ちて居る。訟訴手續によりても一見亮然たるが如く、其方はだゞに間接のみならず、直接にも亦これなる被告の生命を奪はんと致した。其方は、かくして前段余が申渡せし如く、一身の危険を招いたのである。さらば畏れ入つて、殿様の御慈悲を哀願するがよからうぞ。

クラ ヤイ、シャイロック、首でも絞らせて戴くやうに歎願せい。が、汝の財産は、悉皆官府に沒收されて居る事故、首絞りの繩一筋にも困るであらう。因て汝は官府の費用を以て絞罪に處してやらねばならぬ。

公 シャイロック、余は、吾等官民の精神が、汝等猶太人と異なる所を見せん爲めに、態と汝の命乞に先立ちて、汝の生命を恕して遣はす。次ぎに汝の財産の半分はアントニオの所有に歸するのぢや。又他の一半は國庫に沒收すべき筈であるが、若し充分謝罪改心の上は、たゞの罰金にて宥してつかはす。

ボル 分つたか。それは官府に沒收すべき分の事であるぞ。アントニオに對する分でないぞ。

シャイ エ、拙者の生命も、何にもかも、皆取りあげて貰ひませう。家を支へる爲めの黒柱を除かれては、家を取られたも同様、生計を立てる財産を沒收されては、生命を奪はれたと變りはない。

ボル アントニオ、其方は何ぞシャイロックに對して、宥すべき個條がある

か。

クラ 首絞りの繩一と筋は無代で遣はします。其他何にも遣はして下さるものか。

トアン 畏れながら申し上げます。只今の御言葉にては、同人が財産の一半に對して罰金を課すると申すことでムリですが、若し殿様並びに法廷におかれて、之を御免除になるならば、拙者に於て、此上もなき僥倖に存じます。但し、之につけては、財産の他の一半を拙者の手に保管致し、シャイロックの死後、同人の娘の婿に譲るといふ條件を附したうムリとする。尙ほ他にも、二個の條件を附したいと愚考致します。第一は、かゝる寛仁の處分を受けし報酬として、シャイロックが耶蘇教に改宗致すこと。第二は、同人所有の財産全部をば死後ロレンゾ及び

娘デシカに譲與するといふ證書を、即刻當法廷に於て認むる事——

右の個條御聞届けの程を願ひたうムリとする。

公 承知致した。シャイロックには是非その通り施行致させる。さもなきに於ては余は先刻申渡したる大赦の次第を、一切取り消すことと致す。

ボル シャイロック、其方は之に對して、不服の點はなきか。返答しませぬ。

シャイ 不服の點は——ムリませぬ。

ボル 書記はあるか。今述べし、財産讓渡の證書を認めませぬ。

シャイ 拙者は早く退延を許されたうムリとする。氣分がすぐれませぬ。右の證書は後刻御届けくださらば、それに拙者が調印致すてムらう。

公 退延致して苦しうないが調印の儀は間違ふな。

クラ イヤ汝のやうなものでも、洗禮されて神の子の仲間入りか。若し此

グラチアノが判事であつたなら、汝などは絞首臺に連れてまゐり、亡者の仲間入りをさせる所であつた。

とシャイロック退場

公 時に博士、これより自邸へ御來臨、會食の儀を願ひたいもので、ムるが。  
ホル 難有き仕合せにムりまするが、其儀は御免蒙りたう存じます。拙者は今夜の内にパヂェアに向つて出立せねばならぬ身、即刻發足の手筈にムりまする。

公 イヤ御都合が許さぬとありては、誠に遺憾ながら止むを得ませぬ。アントニオ、其方は此御方に對して、懇ろに謝禮を致さねばなるまいぞ。余の見る所によれば、此御方は其方に取りて、一方ならぬ大恩人であるぞよ。

と公爵及び其隨員退場

パッサ 只今殿様の申されましたる通り、拙者并びにこれなる友は、本日貴所様の賢明なる御裁斷の蔭を以て、世にも畏ろしき刑罰から脱する事が出来ました。因て聊かその御禮のしるしとして、猶太人に渡すべき筈の三千兩、これを貴所様に捧呈致したき寸志にムりまする。  
トアン 尙ほ難有き御恩の程は、未來永劫肝に銘じて、仇あるそかには思ひませぬ。

ホル アイヤ何人に取りても、心の満足が何よりの報酬、拙者は卿の急を救ふたのが、それが何よりの満足と思ふて居る。この満足丈にて充分ぢや、決してこれ以上に慾得を欲する人間ではムらぬ。イヤ何れその中、又御面晤の機会もあらば、何卒お見忘れなきやう願ひます。御兩

所御機嫌克う——今日はこれにてお暇致す。

バツサ それぢやと申して、このまゝでは氣が濟みませぬ。謝金とはせず、たゞ聊か拙者どもの感銘の微號として、心ばかりの紀念の品物をお收めくださりませぬ。他に面倒な事は申上げませぬ。たゞ贈呈の品を御收めの事と、拙者の無理を大目に見て戴く丈の事は、是非許して戴かねばなりません。

ホル それほど強てとのお望ならば止むを得ず、御言葉に従ひます。アントニオに向ひ、卿よりは、その手袋を頂戴致したい。紀念として長く使用することに致さう。バツサニオに向ひ、又卿よりは、折角の御好意に甘いて、此指輪を頂戴すると致さう。アレさう御手を引き込めなされるな。その他の品は、何にも取りはしませぬ。友誼上、よも、これしきの一

品を御拒絶にもなるまい。

バツサ イヤ此指輪でムりまするか。これは、ソノ極めて取るにも足らぬ下等の品で、斯様の物を差上げては耻辱になります。斯ンなものは差上げる譯には参りませぬ。

ホル 拙者は此一品を除きては、他に何にも戴きませぬ。何うやら拙者は、その指輪が氣に入つて参つた。

バツサ イヤ品物の價値よりも、此指輪には別に關係せる來歴がムります。此品の代りに、拙者はツエニス市中最高價の指輪を送呈致したい。これより直に廣告致して、その搜索に取りかゝりませう。たゞ此指輪ばかりは、何卒お見遁しを願ひたうムります。

ホル こりや中々口頭だけ、御氣前の善い御方でムるナ。卿から先づ物乞

ひをせいと、拙者に教へて置きながら、さて次ぎに、物乞ひを謝絶る方  
法を御教へになる。

バツサ イヤ實は、これなる指輪は妻からの贈物、手づから指に嵌めて呉れ  
ながら、拙者をして決して賣らぬ、與らぬ、失はぬとの誓詞を立てさせ  
ましたので……。

ガル それは誰しも贈物を通るゝ時の慣用の口實、若しも御令聞が狂人  
でなく、拙者が充分此指輪を受くる丈の功勞があると知らば、指輪一  
個を呉れたとて、よもや、他までも敵意を挿むことはムるまい。イヤこ  
れにてお暇いたす。

とホルシア及びテリサ退場

トアン バツサニオ氏、その指輪を遣はし玉へ、同人の功勞と拙者の友誼と、双

方合躰したなら、秤器にかけて、令聞の命令よりも、些少は重くなつて  
善からうが。

バツサ 然らばグラチアノ、早く駆け出して追及いて呉れ、シテ此指輪を渡  
した上は、成るべく、アントニオ氏の邸宅まで、あの御方を同道致して  
参るが善い。急いで〜。

とグラチアノ退場

さてこれより卿と拙者とは、早速貴宅まで引上ると致さう。かくて明  
日は未明、二人揃ふてベルモントの天をばさして一足飛び、さア御座  
れアントニオ。

と退場

第二場 同上 街頭

ホルシア及びテリサ登場

ホル 其方はこれより猶太人の家を捜しあて、此證書を渡し、調印をさせて来るが善い。その濟み次第、今夜の中に此地を後にし、良人だちよりも一日早く歸宅すると致さう。此證書はロレンゾに取りて何よりの土産であらうぞ。

ケウチアノ登場

ケウ ア、善い處で皆様を追ひつきました。實はバツサニオさまに於て、其後尙ほ熟考の上、これなる指輪を貴所様に御贈呈致すことに相成りました。それから又是非貴所様を、會食に御招待申せとの命令にムリ

まする。

ホル 會食の儀はお断りを申すが、指輪は難有く頂戴致します。その旨宜しくバツサニオ氏に申上げて貰ひます。それから卿に一ツ依頼がある。これなる少年をシャロックの宅まで案内してくれまいか。

ケウ 畏りました。

テリ 旦那様に一ツ申上げる儀がムリます。〔向いテリサ上〕妾は、良人の指輪を貰へるか、一ツ試して見ます。あの指輪は決して人手に渡さぬやう誓はせた品でムリまするが。

ホル 〔向いテリサ上〕必然與れるであらうぞ。やがて歸宅の上は、他人に指輪を遣はした件をさびしく責めて、面目を失はせ、思ひのまゝ言ひ負かしてやらうわいな。



〔高聲に〕ア早く行つてまゐれ！拙者の滞在致す場所は例の所であるぞ。

チリ それならシャイロックの宅まで御案内を依みまするぞ。

と一同退場

### 第五幕

#### 第一場 ベルモント ポルシア邸の入路

ロレンツ及びナエシカ登場

ロレン ほんに見事な今夜の月風はなよ／＼樹の枝を鳴らさぬ程になて  
 へ行く。——斯かる夜半かや、たゞ單り、トロイの城に登り行き、敵の陣  
 所を眺めつゝ、いと戀いしのクレシダが、歸らん時はそも何時ぞと、  
 かの特ロイラスが待ちわびしは。（トロイラス、クレシダの物語は大に中  
 世に行はれ、多くの作者之を詩材とせ  
 り。クレシダはトロイ人カルテヤスの娘、その戀人トロイ  
 ラスを棄て、敵のゲオメードに戀着す。不貞女の標本なり）  
 ナエシ かゝる夜半かや、とぼ／＼と置きたる露を踏みしだき、忍び寄る身  
 のたゞ前に、チラと見えたる獅子の影、キツト一聲、前後も忘れ少女シ

スベの逃げたるは(密會を約しシスベの物語はオピドに出たり。兩人月夜に血痕の附着せるを見以て死せりとなし自殺す。シラスベ再び來りてこの破襟を見ざるや、全)

ンロレ かゝる夜半かや、失戀の柳の枝を携へて、荒磯の上にとゞみ、あはれわが君歸りませと、女王デドーが泣きたるは(シドの女王也。エーチアス王トロイ落城後カルセーシを通るや女王見て戀着す。エーチアス王顧ずして伊太利に去る。女王失戀の餘燒死す。ヴァーニル、チエーサー等之を詩材と

リセ) ヌエシ かゝる夜半かや、衰へし老父の身をば若き身に、かへす力の仙草を、メデア女郎が拾へるは(この物語もオピドに出たり。メデアは魔術女也。境より若き身に回復せしめたり。中に月下仙草を採集する件あり。)

ンロレ かゝる夜半かや、こそくと一文無し(心)のロレンゾに、心中立てして

ヌエシ ヌエニスから可愛いデシカが駈落したは。

ンロレ かゝる夜半かや、わが戀は行末かけてかはらじと、口は調法嘘つき(ウソ)の、ロレンゾといふ若者が、少女デシカを迷はしたるは。

ンロレ かゝる夜半かや、美しい顔をしながら口悪く、良人を尻に敷くデシカ。されど良人はお人よし、格別それを氣にもせず、サラリと水に流したといふは。

ヌエシ 其様な事の言競なら、一夜かゝつても負かしてあげるが、誰ぞ來る様子故止めるとせう。アレ人の足音がしますわいな。

ステファノ登場

ンロレ これく此鎖まり返つた眞夜中に急いでまゐるは誰ぢや、ステ 御存知の筋でムる。

ンロレ ナニ御存知の筋！何んな御存知ぢや名告つて貰はうぞ。

ステ 何を隠さう拙者はステファノ。實は夜の明けやらぬ中に、奥様が御歸宅致さるゝ赴、傳令として参りました。今迄奥様には、所々の靈場を御巡歴、赤心こめて主公と、御同棲の期の早まるやうにと祈願をかけて居られましたのでムる。

ンロレ シテ奥様のお同伴の方は何誰であるな。

ステ 一人の世捨人と、その腰元と、たゞ三人のみてムる。時に主公には、まだ御歸宅にはなりませぬか。

ンロレ まだ歸宅られぬ。書状さへまだ戴かぬ始末ぢや。兎に角デシカ、早く内へ入らう。そして奥様の御歸宅を祝する爲めの、何ぞ準備でも整へやう。

ウンセロット登場

セラウ テトロー！ウアハ、ホー！テトロー！(飛脚の口吹く聲)

ンロレ 誰ぢや怒鳴り居るは？

セラウ テトロー！和主はロンゾ氏と同夫人とを御覽になられぬか。テト

ロー！

ンロレ これ大將怒鳴るのは廢せい。爰に居る。

セラウ テトロー！何……何れに居らるゝな。

ンロレ 爰ぢや。

セラウ 只今主人より派遣されたる一人の飛脚が、お目出度き消息を號角に山盛りに致して参つた。その旨ロンゾ殿に傳言を依みます。主人儀は、未明前に爰に到着される筈。

とフンセ退場

ではナリサ内へ入つて、皆様の御歸宅を待つと致さう。イヤこのまゝで差支があるまい。内へ入る必要も無からう。ステファノ氏、貴公が一ツ内へ入つて奥様が間もなく御歸宅の旨を、一同に傳へてくれまいか。序に貴公の樂器類を屋外へ持ち出して來るがよからう。

とステファノ退場

それにしても、此岸に眠れる月影のさても涼しい事ではある。吾等二人はこの所に腰を下して、徐ろに風が齎らす樂聲に、耳を貸さうではないか。萬籟皆鎮まりて夜の幕の天地を包める時は、妙にさえ亘れる音樂の諧調と適合するものぢや。さアデジカ腰をかけるが善い。大空には、燦然たる星が一杯、一面に磨きあげたる金盤を鏤めたる姿であ

る。然るに是等の天躰の中にて、脚の眼に入る最小のものにても、その運行の際には、天使の如く妙なる聲を立てぬはなく、長へに眉目美しき天童と合奏を致して居るのぢや。(天體音樂既はヒタリ)斯る音樂は人間の頭腦の裡にもあるものゝ、汚れし腐肉もて包まるゝ故、人間は、それを耳に聴くことが出来ぬ。

音樂手多勢登場

さア一同讚歌を歌ふて嫦娥の睡眠をさましてくれ。それから一ツ極めて優美な一曲に、奥様の耳を抉ぐり、音樂の魔力で邸宅に引き寄せて貰はう。

ナニシ 妾は、優さしい音樂を聴く間、毎々精神の浮き立つことはムリませぬ。

それは聊が餘まり音楽に身を入れすぎるからではある。動物までその通りぢや。かの戯舞好の牛、悪戯盛りの小馬などの羽目を外して跳躍并舞、高い聲で吼えもし嘶きもするのは、それは彼等の血が湧き立てる平生のこと、若しも喇叭の響とか、音楽の曲とか、彼等の耳に入るが最後、一疋残らず、ハタとその脚をどどめて了ひ、その野蠻い眼は、いつか、穏和しい睥視となる。實に音楽の魔力は大きいものぢや。されば昔の詩人の作にも、希臘の樂人オルフェウスが音楽の力にて、樹木をひき寄せ、石や潮を動かしたといふ作話がある。げに音楽ならては、かくも無神経な、かくも頑冥にして凶猛なるものを、少時なりとも動かす事は出来ぬ。人にして音楽の素養なきもの、又朗々たる合奏に感動せざらん程のものは、其の人は必ず叛逆を企て、隠謀をたくろみ、

又強奪を行ふに相違なく、且つその精神の活動は、暗夜の如く遲鈍に、又その愛情は陰府の如く暗黒なるものに相違ない。かゝる人物は決して信任してはならぬ。ヤあの樂聲！

ホルシア及びテリサ登場

ホル 彼所に見ゆるは、邸の廣間に燃ゆる燈光ぢやな。それにしても、さばかり小さい燭火のよくもかく遠方まで燃めいては見える。善き行爲の世を照すも、またこの類ではあらうぞい。

テリ 先刻月の明かつた折には、蠟火の光は、眼にも留りませなんだに。

ホル それは大なる譽の前に、小さい譽の隠れると同じ譯ぢやわいな。例へば總督など、いふ者は、國王の居ぬ中こそ、ゆゝしい威光を有ちます。れ、國王の傍に立てば、忽ちに火の消えし面持して、威儀も、權柄も、青海

原に注ぐ小河のあと白浪となるならひ。——アレ——あの樂聲！

チリ 奥様あれはお邸の音樂でムリまする。

ホル これにつけても、チリサ、四邊の景物といふものは、さて何事にも肝要ではある。晝の真中に聴くよりも、ずつと優美に聴かるゝぞいな。

チリ 奥様、これは全く靜謐のお蔭でムリまする。

ホル ホンに雲雀も鶉の聲も耳をすまされば格別の差別はないかも知れぬ。不如歸なども若しあれが、潮聲を立てる鶯鳥の群と同じく、晝中に歌ふものなら、或は鶯鶯以上の美音とも讃されまい。その他大概いかなるものにて、時節と場合の配合が肝要配合がついてこそ、初めてその名に負かぬ長所もあらはれ、眞の價値も出はする。——ア一寸音樂を止めるがよい。月は今、雲の帳にエンジミオンと添臥の夢まで

か。(エンの女神にオンは希臘の英雄少年、或る夜ウトマス山頂に眠れる時)

と樂聲止む

ンロレ あれは確かに奥様の御聲、よも間違はなき所思。

ホル 縁起のわるき聲をたよりに、盲人も郭公をしようとやら。善うもお當てになられたもの。

ンロレ 奥様には何のお變りもなく、お目出度く存じまする。

ホル 今まで良人達の無事を祈つて居りましたが、お蔭で多分良人達も息災に歸つてくれますわいな。まだ爰には見えませぬか。

ンロレ イヤまだお歸宅にはなりませんね。尤も最前一人の使者が參つて、追ッ付御歸宅の旨を觸れて參りました。

ホル チリサ、早う内へ入つて、一同の者に、身達が不在をしたことを、口外

せぬやう申付けるが善い。ロレンツ殿卿にも依みまするぞ。デシカ殿にも。

と喇叭の囀子聞ゆ

ンロ アレ旦那様が最う附近に見えました。喇叭の響が致します。口外するなどの仰に就きては、それは決して御配意には及びませぬ。私どもは、さまで饒舌家でもムりませぬば。

ホル ハテ今夜は、宛かも日光のかすけく照らす晝のやうではある。たゞいさゝか蒼白いまで。日の影の雲隠れせる日は、かくもあらうか。

ハッサ ニオ、アントニオ、アラチアノ其他随員登場

ハッサ アイヤ、ボルシアといふ光君が進歩を移して居らるゝ中は、よし日の影は見えずとも、世界に闇はありませぬ。

ホル 光君ならよけれども、家を預る妻の身に、暗い行爲は何より禁物。妻の身が暗ければ、良人の胸は曇り勝ちとやら。大切なこちらの人に、左様の事はさせられませぬ。とは言ふものゝ、萬事は神の御司配——先づく何のお變りもなく、お目出度存じまする。

ハッサ 懇ろな卿の言葉、辱ふ。先づわが友に挨拶をなさるゝが善い。この御方こそ、拙者にとりて、海岳の恩人、アントニオ氏てゐる。

ホル ホンニ貴郎の受けたる御恩は、並一と通りのものではないぞいな。貴郎故にアントニオ様は、飛んだ御迷惑をなされたとやら。

トアン イヤその迷惑は何であらうと、最早濟んだ後の祭。

ホル 何はしかれ、善うこそ御來訪被下れました。言葉の端などには、とても述べ盡せぬ御鴻恩、實地の御禮を致しますわいな。

クラ 「テリサに向ひ御空の月も照覧あれ卿は餘り邪推深い。全く拙者は彼の品を判事殿の書記生に遣はしたのぢや。さう卿に眞劍に食つてかゝられる位なら、あの書記生奴去勢でもして居れば善かつたと思ふ。

ホル 卿達はモ一喧嘩して居るか。何う致したと申すのかいな。

クラ ナニ指に嵌める金の緒で、彼女が拙者に渡した安物の指輪の一件で、われを秘藏せよ、見棄て賜ふななど、鍛冶屋が刃物に彫りつけると同一文句が彫りつけてあつた奴で。

テリ 文句が何うの斯うのと、其様ナ事を言ふたとて、何の役に立ちますぞい。妾が彼品を和主に與げた時、和主は何と言ひました。——死ぬ日まで決して、此指輪は手離さぬ。死なば一所に墓に入れると言つたて

はありませぬか。妾の事は、そりや何うなりと構はねど、此猛烈い誓詞の手前に對しても、少しは遠慮して、彼品を大事にして善いではムりませぬか。——彼品を判事どの、書記生に與れましたとえ！誰が左様の事を眞實と思ふものぞいな。和主が指輪を遣はした書記生とやらは、生涯その顔面に髭の生いぬ、可愛らしい御方であらう。

クラ ナニ生いなくて何うするものか！若しあの若者が大人になるまでの壽命を有つて居さへすれば……。

テリ イヤ婦女が男子になるならば、でムンせうが。

クラ ハテ疑念深い。拙者は確かに此手で、彼品を一人の若者に與れたのぢや。その若者といふは、まだ乳臭い小僧殿で、骸軀が小さくて、身材は先づ卿位で、判事殿の書記生で、口數のいかにも多い奴で、彼品を骨折



賃として惜しいとねだる。拙者は人情として、それを拒絶し兼ねたのぢや。

ホッ ころや遠慮なく申したなら、卿の罪状は遁れませぬ。妻よりの最初の贈物を、さう軽々しく他人に遺すといふ法はありませぬ。其品は誓詞と共に、卿の指に嵌め行末かけてかはらじと、卿の肉に固着けたのでは、ムリませぬか。妾とても同じく、わが良人に指輪を贈りて、ゆめゆめ之を見棄て玉ふなと、固い誓約をさせました。良人はこれ爰に居られるが、良人に限りては、縦令世界の富と交換すると言はれても、よもあの指輪を取るの、與るのは、仰せられまい。嗚、グラチアノ殿、卿はホッ ンに妻に對して苦勞の種を與へたぞい。若し、それが妾の事でもあつたなら、必然氣でも狂ふわいな。

ハッサ 「旁白」このやうな事になるなら、左の手でも切り去つて、指輪を防禦の爲めに、之を失つたと申す方がよかつたらう。ころや、飛んだ事になつたわい！

クラ イヤ、指輪を與つたのは拙者ばかりでは、ムリませぬ。パッサニオ様も判事どのに指輪を望まれて、到頭それを遣はされました。また實際指輪を遣はすべき價值が、ムリです。すると書記生の小僧も、何ぞ筆記の事に骨折つたといふを口實に、拙者のを所望致した。兩人とも指輪の外には、何物も受けぬと申すのであるから、致方がムリませぬ。

ホル 貴所は何の指輪を遣はしにされました。よもや妾より差上げし、あの結納の指輪では、ムリですまい。

ハッサ 卿にさう言はれると、結納の指輪ではないと申したいが、今更嘘を

吐いて過失の上塗は出来ぬ。何を隠さう、卿の見やる通り、指には最早あの指輪は嵌つて居ぬ。

スル すりや指輪の無きは心に信實のなき證據。何事ありとて、あの指輪を見るまでは、貴郎と添臥はしませぬぞい。

チリ 妾とても同じ事、妾の指輪が戻らぬときは、和主と枕はかはさぬぞい。

スル アレさう早まつて呉れるな。これには充分譯があること。指輪を與れし先方の人は誰、又それを贈らせたものは誰、又それを贈つた理由は何。して又指輪ならては、何物も受取らぬと主張されし時の拙者の濫り様——是等前後の事情を詳く承知された上は、卿の立腹も必然和ぐてあらう。

ホル これは言葉とも覺えませぬ。若しも貴郎が、あの指輪の眞價を御存知あらば、又あの指輪を贈れる妾の半分の眞價、さては又、あの指輪に對して固く誓はれし貴郎の名譽、是等を御心にとめて居られたなら、貴郎は決して、あの指輪を手放すべき筈ではムりませぬ。若し貴郎さへ確乎して、熱心こもれる辭句に、他まで拒絶されたなら、それでも尙ほ、この結納の品をと、達て言張る程押のつよい、没曉分漢は、よも世の中にはムりませぬ。チリサ、汝はよい所に氣がついた。こりやまさしく、何所ぞの姫御前に、あの指輪を與りになつたに相違ない。

パッサ こりや酷しい邪推、拙者はわが名譽にかけ、イヤニツなきわが靈魂にかけて誓ひませう。拙者は決して、婦人の手などにあの品を與りはせぬ。指輪は確かに法律博士の方に贈つたのぢや、同人は拙者より贈

呈せんとしたる三千兩の金子には目もくれず是非あの指輪をとの  
懇望されど拙者は一旦はそれを拒絶した友の生命の親であるにも  
係らず拙者は忍んで同人が不興の顔して立ち去る所を見て居つた  
がその時の心苦しき拙者は終に使者を送つて同人を追はせた外聞  
と禮儀との二ツの念に壓倒された丈夫の面目にかけても忘恩の行  
爲を敢てすることが出来なかつたかゝる次第であるから何卒大目  
に見のがして呉れよ清らかなる光を放つ御空の星辰に對しても誓  
詞を立てる卿として若し現場に居つたなら受合つて指輪を脱してか  
の博識の博士にそれを贈れと歎願したであらうぞ。

ガル 其法律博士とやら滅他に此附近に近寄らせぬがよい。妾の爲めに  
大事の指輪又貴郎とて大事に持つと誓はれた品それが今此の法律

博士の手に入つた上は妾とて御同様に任意に振舞はんで何としま  
せう。その博士のいはるゝまゝ何物なりと遣はします。この軀軀も  
又枕并ぶる良人の床も皆其人に貸してやる。その中この御方とは是  
非懇意の仲となるほどに餘程御用心なされて一夜も不在をせぬや  
う、ち氣をつけなされませ。蚤取り眼に張番をなされませ。若しさもな  
くて妾の自由にしておくなら妾が何をすると思召す。まだ疵つかぬ  
婦女の操にかけて、確かにその博士の閨房の友となつて見せますぞ  
。

チリ 妾は又その書記生と逆添ふぞい。氣をつけて見張つて居らねば何  
のやうな事をするか知ればせぬ。

ケラ フム左様の事をするならして見るが善い。書記生奴俺様の手にか

いらぬ用心が肝腎、一旦かゝるが最後、そのペンを碎いて呉れる。

トアン アイヤ皆さまの争論の根源は皆拙者に在る。

ボル その御配慮は御無用にムります。何事によらず貴所様の御來臨は歡ばしう存じます。

ハツッ 喃ボルシア、今回の過失は萬止むを得ずして犯せる過失、何卒大目に見通して呉れよ。余は臨席の諸氏の聞かゝる面前にて誓詞を立てやう。わが姿の映りて見ゆる、涼しき卿の兩眼にかけて……

ボル 何と被仰る！ 妾の兩眼には、一方に一個づゝ、貴郎の姿が二個映れる筈、舌を二枚に使はるゝ、貴郎のお言葉、ハテ信用のあけることではあらう。

ハツッ アンさう言はれずに、聽いて呉れよ。今回の過失のみは宥して呉れ。

拙者のニツなき靈魂にかけて誓言致す。モ、二度と卿に對する誓詞は破らぬ。

トアン 實は奥様、拙者はハツサニオ氏の出世を望むあまり、この一身を貸してあげました。之が爲めに不幸の淵に陥りて、最早最後と見えたる所を、救ふて呉れしはかの博士、即ち御良人より、貴重な指輪を贈つたその人てムります。拙者は今一度御良人の爲めに、この掛換なき魂をかけて、決して決して故意に、二度と誓詞を破らぬ事を保證致します。これにて何卒今回の所は御勘辨ありたきもので。

ボル それなら貴所様に保證人の役目をお依み申します。さア何卒此指輪をハツサニオに遣はされ、先きの品より大切に所持するやう、申しつけて戴きたらムります。

トア ！ さアバツサニオ氏、この指輪を失はぬやう誓言なされい。

バツサ ヤ……これは意外！これは確かに拙者が博士に贈りしと同一品。

ホル 其指輪は博士から貰ひ受けました。許してたもれ、バツサニオぬし、この指輪のお蔭にて、妾と博士とは添臥した。

チリ グラチアノ殿にも妾の罪を宥して戴きます。博士の連れてまゐりし、あの青二才の書記生は、この指輪のお禮として、妾と昨夜うれしい夢を見たわいな。

クラ 何んぢや忌々しい！まるで日和つゞきの夏の真中に、悪るくもない道路の普請するやうな話。罪謎もないのに、女房を横奪されて間尺に合ふものか。

ホル アレさうガミ〜 亂暴い事を言はるゝな。貴所方は皆眼を眩して

居られる。先づゆる〜、これなる書状なりとお読みなされませ。これはパチユアなるベラリオ老博士より参れるもの、これさへお読みになるならば、かく申す妾が、即ちかの法廷に出でし博士、又チリサがその隨行の書記生であつた次第が、委細明白になります。又ロレンツぬしにお聴きなされても分りませう。妾は貴郎方に續いて家を出て、漸く今立ち戻つたばかり。まだ家の内へも入らぬ所でムります。――先づ〜アレントニオ様、善うこそ御來臨くださりました。貴所様には、思ひの外の吉報を山ほど齎らしてまゐりました。早う此書状をお開けあそばせ。書状の中には、貴所さまの船舶が、三艘までも、高價の貨物を満載して、俄かに着港した事が載せてあります。この報知が、いかなる不思議の事にて、妾の手に入つたか、それはわざと申上げずに

おさまする。

トアン これは、げに驚歎の外はない。

ハッサ すりや卿があゝの博士で、それを身が知らずに居たのであつたか。

クラ 卿があゝの書記生で、それが拙者の女房を盗みかけたのであつたか。

チリ ハイ併し、あゝの書記生には女を寝取る氣はないぞい。男にはなれぬ

身ぢやものを。

ハッサ 可愛らしい博士の君、卿は拙者の閨房の友としてやるぞい。若し又

拙者が不在であつたら、苦しうない、拙者の妻と同宿せい。

トアン 奥様、貴女は拙者にとりて生命の親又家の保護神。此書狀によれば

船舶が碇泊地に安着したといふは、いよ／＼事實に相違ない。

ホル ロレンゾぬし、卿にもさかせることがある。これなる書記生は、卿に

土産の品を齎して來ました。

チリ 報酬は戴かずに、残らず渡して上げるわいな。——さアこれは貴所

とヂェシカどのとのお兩人に向けて、シャイロックよりの財産讓渡

の證書、自身死去の後は、財産全部を譲るといふ文句。

ンロレ 何所までも行届ける御はからひ、飢ゑたるものに供へくれたる大

牢の珍珠。

ホル おゝ、かれこれ致す程に夜も最う明け際、されど察する所、まだこれ

丈の談話では、何れもお氣が済まれない。さ、内に入るとしませう。家に

入つてから何なりとお質問なされませい。一伍一什の物語、包まず、あ

りのまゝに返答しませうわいな。

クラ それが宜うムらう所、拙者が第一にチリサに白狀させねばなら

ぬ問題は、このまゝ明晩まで續いて起きて居るか、それとも早速寢床に入るかといふ一件。モー夜明まではたつた二時間。尤も夜が明けても暗ければしめたもの、博士隨行の書記生とゆつくり添臥が出来てあらう。イヤ一生の中に何が六ヶ敷いとて、テリサの指輪を大事に持つて居るほど、氣骨の折れることはあるまい。

と一同退場

幕

### ヴェニス商人終

明治三十九年二月二十日印刷  
 明治三十九年二月廿三日發行

ヴェニスの商人  
 定價金八拾錢

著 者

淺野和三郎  
 戶澤正保

發 行 者 兼 印 刷 者

大日本圖書株式會社  
 代 表 者 宮川保全  
 專務取締役

沙 龍 全 集

發 賣 元

東京市京橋區銀座丁日二十二番地  
 大日本圖書株式會社  
 大阪市東區北久太郎町四丁目十七番屋敷  
 大日本圖書株式會社支社

大日本圖書株式會社出版圖書特約販賣所

○小嶋。支間。白鳥。川附。池田。魁文會。一二堂。山本。最上谷。村上。東村。文林堂。水野。東京堂。六合館。丸松。仙鶴堂。中野。青野。中四屋。杉村。穴山。中央堂。松島。森江。大倉。金剛。北隆館。三友。播磨屋。内田。東海堂。文會堂。嵩山房。榮進館。真明堂。青年堂。柏原。弘集堂。田沼。丸屋。高桑。高橋。覺張。野島書店。西村。中山。萬松室支店。北光社。松田。目黒。山本。柿村。水野。いろは堂。盛化堂。向古堂。松野。學堂。文江堂。淨觀堂。木田。○多田屋。伊沼。明文堂。川又。大塚屋。寺田。南龍堂。高木。宮田。枋木。内山。永樂屋。平石。青木。○安屋。水東書店。川瀬。吉見。谷崎屋。古澤。菅沼。大石。柳正堂。○日新堂。水學堂。小林。朝陽館。西澤。盛文堂。丸山。藤崎。藤崎。虎尾。陽文堂。丁子屋。上野屋。○文港堂。佐藤。近藤。塚田。浦山。今泉本店。今泉支店。伊吉。盛文堂。日向。牧野。五十嵐。相原。○東海林。藤崎。鮮進堂。中田。學海堂。柳田。若林。中井。河合。松田。村上。南波。○岡島。金川。中川。柳原。小谷。松村。三木。梅原。吉岡。前川。丸善。田中。三宅。石田。北村。金尾。石井。本田。中井。竹内。○熊谷。石田。瀧浦。竹内。木村。藥師寺。虎與號。集英堂。木原。木原支店。高橋。○品川。西村。宇都宮。近田。古香堂。德岡。今井。藤谷。安達。大鷹。園山。川岡。板倉。○武内。鈴木。兒玉。原田。藤川。村田。白銀。小原。宮井。○先。入江。魚友。向井。土屋。澤本。石田。森岡。菊竹。梅津。中國。佐野。○牧川。河内。長崎。松井。津野。野崎。吉田。久永。豐見城。有馬。

沙翁全集は抄擇に非ず  
概に非ず 忠實と  
親切とを旨としたる完  
全譯なり 文壇の至寶  
として永く後世に傳ふ  
べきものは即是なり

文學士 淺野馮 戶澤姑射共譯

# 沙翁全集

全部 三十七卷  
每卷約四百頁  
數ヶ月毎に一巻宛  
刊行の豫定なり

- 既刊
- ▲第一卷 ハムレット 姑射譯 定價金八拾五錢 郵稅拾錢
- ▲第二卷 ロメオとジュリエット 姑射譯 定價金八拾錢 郵稅拾錢
- ▲第三卷 ヴェニス商人 馮慮譯 定價金八拾錢 郵稅拾錢
- ▲第四卷 オセロ 姑射譯 三月 出版
- 明治二十九年三月以後に於て發刊すべきもの左の如し
- ダイタス、アンドロニカス
  - 顯理六世上篇
  - 全 中篇
  - 全 下篇
  - 戀の無狀骨折
  - 間違の喜劇
  - ツェロナの二貴人
  - リチャルド三世
  - 夏の夜の夢
  - リチャルド二世
  - ジョン王
  - 悍婦ならし
  - 顯世四世上篇
  - 全 下篇
  - 面白きウインザアの女房達
  - から騒ぎ
  - 顯理五世

- 御意のまゝ
- 十二月
- シーザー
- 終よき皆よし
- しつぺい返し
- トロイラス、クレシダ
- リニア王
- マクベス
- アントニー、クレヲパトラ
- アゼンスのタイモン
- コリヲレーナス
- ペリクレーイデ
- シムベリン
- あらし
- 冬物語
- 顯理八世

大日本圖書株式會社



帝國文學 每月發行 定價金拾五錢 郵稅壹錢

丁酉倫理講演集 每月發行 定價金拾貳錢 郵稅壹錢

定期刊行

教育研究 每月發行 定價金貳拾錢 郵稅壹錢



好評三版 文學士 片山正雄著 男女と天才

美裝一冊(定價六拾五錢 郵稅拾錢)



帝國文學會編纂

帝國百號紀念 全一冊 定價金貳拾五錢 郵稅壹錢

明治三十七年新 號 全一冊 定價金貳拾五錢 郵稅壹錢

臨時懸賞小説と講演 全一冊 定價金貳拾五錢 郵稅壹錢

文學士 文豪小泉八雲 全一冊 定價金貳拾五錢 郵稅壹錢

帝國文學 文學創刊十週年紀念號 全一冊 定價金拾五錢 郵稅壹錢

臨時 第二 二シルル紀念號 全一冊 定價金拾五錢 郵稅壹錢



78

69



